

序

関節リウマチ（RA）の治療は、近年薬物療法の進歩に伴い、治る疾患としてとらえられ大きな転換の時期を迎えました。とくにMTXや生物学的製剤の導入によって骨破壊が阻止され、あるいは修復の可能性への期待が患者サイドはもちろん医療者サイドにも大きく広がっています。

ところが医療現場では、新たに登場した新薬への理解、使用方法、有害事象などへの対応に、今まで以上の知識と経験が求められるようになってきています。さらに新薬出現当初は、RAはこれで根治され、骨破壊によって寝たきりのような身体障害に進むことはなくなるであろうと期待されましたが、約2割の患者さんはコントロールが難しいことがわかつてきました。これはRAの病因の多くがいまだ解明されない今日、獲得免疫サイドのサイトカインやT細胞、B細胞の阻害だけでは解決されないと容易に推測されます。そのため実臨床ではRA炎症のさらなる鎮静化を図るとともに、患者さんに対する心、身体のケアならびに、社会、環境、経済などの背景をふまえたうえでのケアの実践が今まで以上に重要になっています。

外傷や感染症などの急性疾患と違って、リウマチ性疾患、慢性腎疾患、高血圧症、糖尿病、がんなどの慢性疾患は病院内ののみの治療では、患者さんのQOL（生活の質）を満足させることはできません。最近の流れは患者さんを中心に据えて多職種の専門集団がいろいろな角度から介入し、情報共有による治療の一体化を図るチーム医療の構築へと舵の修正がせまられるようになっています。そしてトータルケアにおいて、看護師の方の役割が増し、専門性の高いリウマチ専門看護師の育成が望まれています。

欧米ではケアをプライマリとセカンダリに分け、プライマリケアは患者さんの症状が発生した時点から診療所までの患者サイドの対応を指し、一方セカンダリケアは診療所から専門病院での特殊介入での対応ととらえられます。本邦ではまだケアの概念は抽象的ですが、このような考えを取り入れ、本書は看護師の方がケアの本質を実感できるよう「専門性の高い入院での特殊ケア」「外来診療での一般ケア」「家庭で患者が行えるホームケア」の各分野をリウマチ専門医や専門職の方から解説していただきました。さらにこれらとともに、看護師の方に看護師目線で実践のケアをわかりやすく記述いただき、従来にはみられないマニュアルとしてまとめることができました。

RAの治療は今後、病気を根絶するキュアという医療側の目線でなく、患者さん本人を中心とした全人間的観点から、多職種と交わりながらケアを進める方向に向かいつつあります。現在リウマチ看護に携わっている方、またリウマチ専門看護師を目指す方に、ぜひ本書を通して本来のリウマチケアの手ごたえを習得していただければ幸いです。

2013年5月

村澤 章